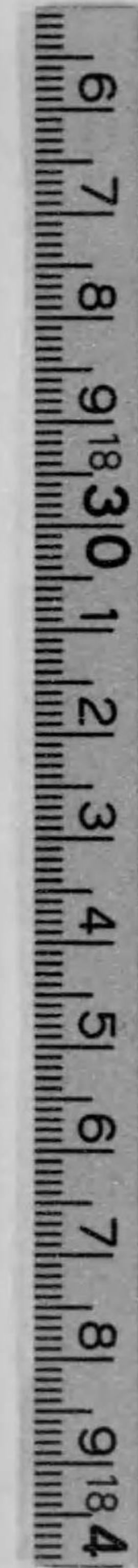


14.5  
127



始

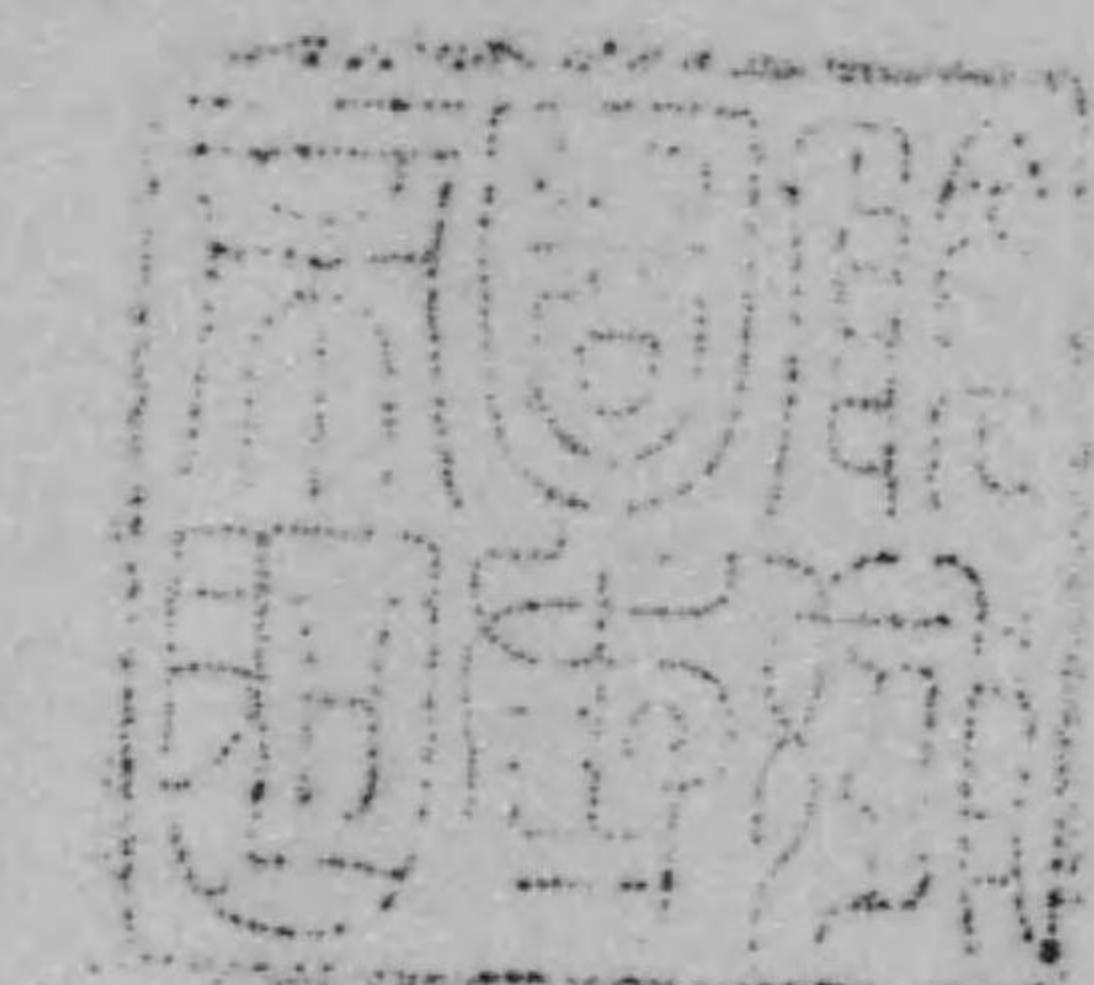


山 口 縣

史蹟名勝天然紀念物調査報告 第二卷

大正十四年三月

14.5  
127



## 緒 言

一本書第一卷ハ史蹟名勝天然紀念保存法第一條ニ依リ指定ヲ受ケタル史蹟

松下村塾

生北限地

同 吉田松陰幽囚家屋

名勝

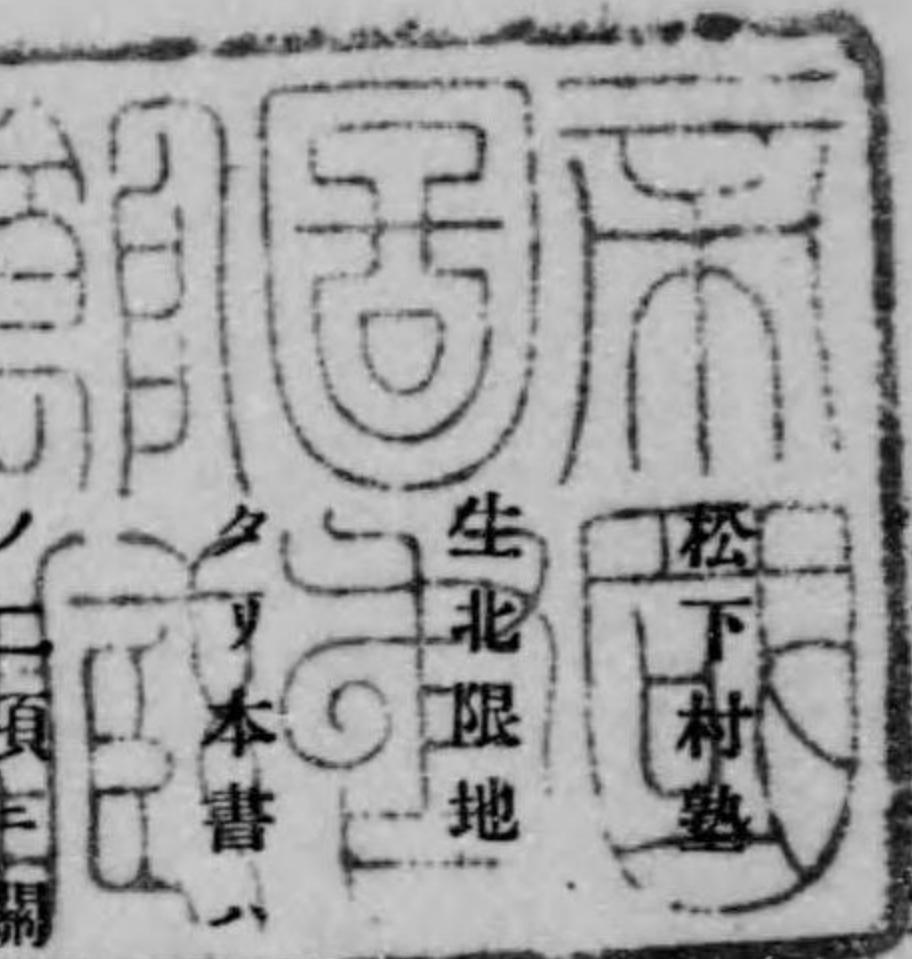
錦帶橋

天然紀念物

なまこ

樟の森 瀧穴 景清洞 大正洞 中尾洞ニ關スル記事ヲ

蓋セ



クリ本書ハ第一卷ニ續キ同法ニ依リ天然紀念物トシテ指定ヲ受ケタル  
ノ口項目關スル記事及其ノ寫真ヲ掲ケタリ

一 今日迄指定ヲ受ケタルモノニシテ別ニ史蹟 反射爐 名勝 長門峽 天然紀念物 明神ノ池等アレハ是等ハ漸次卷ヲ逐フテ掲載スヘシ

大正  
14.3.7  
内文

145-127

史蹟名勝天然紀念物調査報告 第二卷

目 次

- 一〇 天然紀念物 白 蛇 .....  
一一 同 上 鶴 渡來地 .....  
一一 畫真版目次

- 一 白 蛇  
二 麻里布村白蛇棲息地域全景  
三 白蛇ノ多數棲息スル今津市街  
四 白蛇ノ最モ多數棲息スル今津ノ御藏  
五 白蛇ヲ祀ル立石  
六 群 鶴  
七 同 上  
八 鶴 之 墓

一頁



蛇 白

白蛇  
白蛇者，其性至毒，能害人。其形如常蛇，但身白，故名白蛇。其口有白粉，能致人死。其目有白光，能致人盲。其尾有白毛，能致人癩。其皮有白鳞，能致人癩。其肉有白脂，能致人癩。其骨有白髓，能致人癩。其血有白汁，能致人癩。其尿有白液，能致人癩。其便有白屎，能致人癩。其精有白液，能致人癩。其卵有白壳，能致人癩。其胎有白膜，能致人癩。其乳有白汁，能致人癩。其涎有白液，能致人癩。其涕有白液，能致人癩。其泪有白液，能致人癩。其汗有白液，能致人癩。其尿有白液，能致人癩。其便有白屎，能致人癩。其精有白液，能致人癩。其卵有白壳，能致人癩。其胎有白膜，能致人癩。其乳有白汁，能致人癩。其涎有白液，能致人癩。其涕有白液，能致人癩。其泪有白液，能致人癩。其汗有白液，能致人癩。

# 史蹟名勝天然紀念物調査報告 第二卷

## 第二卷

一〇 白蛇

大正十三年十二月九日

城 玖珂郡麻里村大字今津大字室木一圓及大字今津ヨリ今津川對岸

沿地

古來前記レ地域ニ於テハ白蛇ニ就テハ何人モ嚴重ナル秘密ヲ保チ決シテ他ニ之ヲ語ラズ各自夫々充分ノ保護ヲ加ヘテ外來人ノ眼ニ觸レザルヤウ注意シ來リタル結果大正十二年十月當廳ガ始メテ其ノ調査ニ着手セシ時迄ハ隣接地ナル岩國町ニ於テスラ之ヲ知ルモノ殆ンド皆無ノ有様ナリキ、大正十三年八月再ビ其調査ニ着手スルヤ同村ノ人々モ其棲息地ノ範圍及棲息ノ概數ヲ始メテ氣附タルガ如キ有様ニテ其後研究ノ日時ヲ得ザルガ爲メ本調査モ未タ完全ナルモノニハアラズ、今後ヨリ以上ノ學術上價值アル事實ヲ多數發見シ得ルモノト信スレトモ完全

ナル調査ハ幾年後チニ完成スルヤ計リ難ケレバ今日迄得タル事項ニ就テ之ヲ略述シ後日研究者ノ注意ヲ促サントス、白化即チ俗ニ云フ白子ハ動物ニ限ラス植物ニモ之ヲ見ル、玖珂郡ノ一地方ニ棲息スル白化セル雉即チ白雉ノ如キハ盡ク雌ノミニシテ未タ雄ヲ見タルコトナシ、但シ鳥類ハ雄ノ數ヨリモ雌ノ數多キヲ以テ玖珂郡ノ白雉ハ盡ク雌ナリトハ斷言スルヲ得ズ、調査未タ不充分ノ結果今日迄其ノ雄ヲ發見シ得サルナラン。

麻里布村ノ白化蛇即チ白蛇ハ雌多キカ雄多キカ或ハ雌ノミナルカ今日迄ハ研究セラレザル問題ナレバ今後調査ヲ進ムルニ從ヒ分明スルナルヘシ。

白化動物ハ雌雄ニ關係シテ其數ガ一方ニ偏スルモノニアラザルカ或ハ全ク、關係無キモノナルカ是レ亦タ今後ノ問題ナルガ如シ。

美禰郡赤郷村繪堂ノ西十數町ノ所ニアル無名ノ石灰洞穴ハ平時ハ吸込穴ナルモ大降雨ノ後ニハ吐出洞ト化シ再ヒ吸込穴トナルカ如キ珍ラシキ洞穴ニシテ其洞口ハ極メテ狹小ナルモ内部ハ驚クヘキ巨大ナル洞穴ニシテ大ナル地下ノ湖水存スルガ如ク像シ得ヘク渡瀬理學博士ガ大正十三年八月實地踏査ノ際白魚洞ト命

名シタルモノニシテ該洞穴内ノ魚類ハ鯉、鮒、鯿、鰻、鰐等ニハ鼈極メテ多數棲息シ鯉モ鮒モ鯿モ鼈モ盡ク白化シテ殆ンド純白ニ近キ白色トナル是レ永年月ノ間闇黒ナル洞穴内ニ棲息シテ全ク日光ニ觸レサル結果其ノ色素ノ潜在セルモノニシテ其ノ白化ノ原因ハ麻里布村ノ白蛇及玖珂郡ノ一部ニ棲息スル白雉トハ趣ヲ異ニス白化ハ其ノ皮膚ニ派生物中ノ色素ノ缺乏ニ依ル物理的缺陷ナラント論スルモノアリ。

本縣ニハ白化動物極メテ多シ前述ノ如キ白蛇及白雉ノミナラズ其他白メシロ、白鶲等ノ棲息スル地方アレハ本縣ハ白化動物ノ研究者ニ頗ル便宜多カルヘシ参考ニ附記ス。

白化現象ノ原因及結果ハ今後趣味アル研究ニ屬シ麻里布村ノ白蛇ハ其好箇ノ資料ナルト共ニ其分離ノ状態ハめんてるノ方則ニ據ルガ如ク觀察セラルモノナレバ併セテ遺傳學上ノ好資料ナルベシ。

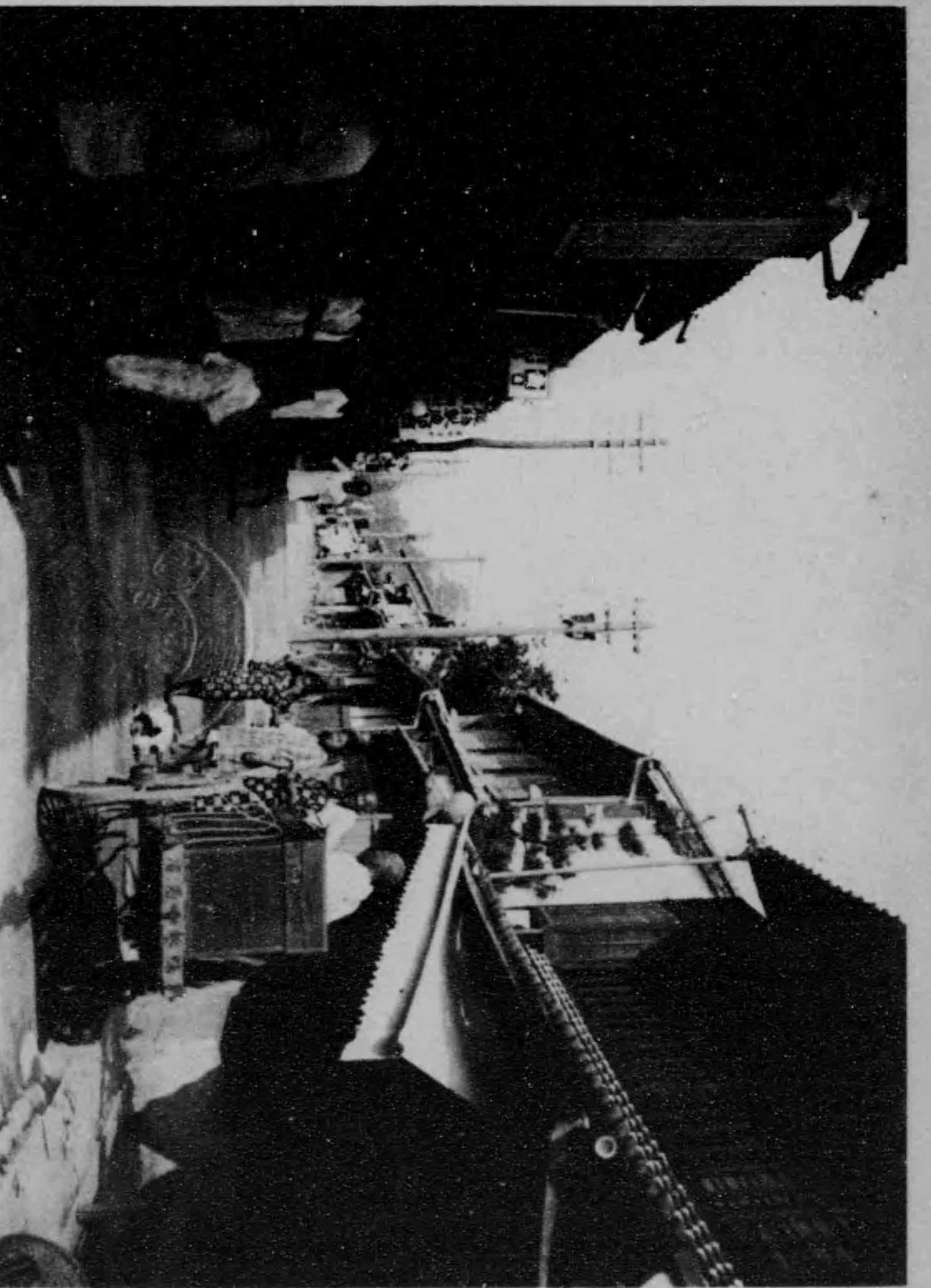
白蛇棲息地方ノ概況

錦帶橋ノ架設ニテ名高キ岩國川ハ流末三角洲ヲ挾ンデ今津川及門前川トニ岐ル

今津川ノ北岸ハ殆ンド麻里布村ニシテ三角洲ノ全部ト今津川口ノ北岸ノ一小地域ハ川下村ナリ、麻里布村及川下村ハ錦帶橋ノ東一里餘ノ所ニアリテ麻里布村ノ北部ハ花崗岩ノ小丘連亘スルモ其他ハ川下村ノ全部ト愛宕村ノ南部ト相連ナリテ略ホ三平方里ノ小平野ヲ爲ス、此平野ノ東岸ハ廣島灣ニ面シ海岸ノ全延長約二里ニシテ干満ノ差著シク土地海面ヨリ低クシ、平野内ハ主トシテ田畠ニシテ水田最モ多ク桑園之ニ次グ、人家ハ到處ニ點在シ岩國驛前及今津ノ二箇所ニハ人家稍々稠密シ今津ハ三百餘戸軒ヲ接シテ小市街ヲ爲ス、鐵道山陽線ハ平野ノ中央ヲ南北ニ縱走シ岩國町新港間ノ電車ハ平野ノ北方ヲ東西ニ横斷ス、岩國驛ハ麻里布村ノ東南部ニ位ス、白蛇棲息地域ハ平野ノ北部ニシテ川下村ノ北方向今津ヨリ麻里布村新港以南ノ間ニシテ東西二十町、南北二十町面積約四百町歩ノ範圍内ナルモ今後白蛇棲息地ノ範圍ハ漸次擴張スル見込ナリ



麻里布村白蛇棲息地全貌



街市津今ルノ息棲數多ノ蛇白

### 白蛇ノ種類及白化ノ程度

白蛇ハ人家内ノ天井裏、床下、倉庫内等ノ鼠ヲ捕ヘテ食物トスル青大將、俚稱「鼠取り」ノ白化シタルモノニシテ其ノ程度ハ全タ完全ニ白化シ全身少シモ斑點及條線ヲ認メズ白墨ト同一程度ノ白色ナレニ鱗面ノ光澤ニ依リテ白光ソラ爲スコト恰セ白色ベンキヲ塗リタルガ如キ觀ヲ呈ス、長サ四五寸前後ノ仔蛇ハ血液鱗面ヲ透カシテ稍ヤ桃色ヲ呈ス、白蛇ハ巡行セシ場所ノ塵埃ノ爲メニ見苦シク穢レタル場合モ少ナカラズ又タ脱皮ノ前後ニ依リテ色合ヲ異ニス、脱皮前ハ稍ヤ黃味ヲ帶ヒ脱皮後ハ純白色ヲ呈ス、故ニ今津地方ニテハ白蛇ニハ金色ノ蛇ト銀色ノ蛇トノ二種アリト云フモノアレ既決シテ二様ノ色合ナル白蛇ニハアラス極メテ稀ニ白蛇ガ僅カニ斑紋ヲ有スルモノヲ見タルモノアリト云フモ果シテ斯ノ如キ白蛇ノ生存スル否ヤ未タ明カナラス

### 白蛇ノ大サ

白蛇ノ大ナルモノハ舊藩主吉川家ノ今津ノ倉庫俗ニ御藏ト稱スル古キ建物及其附近ノ家屋内ニ棲息徘徊スルモノニシテ長サ十一二尺ヲ超ヘ胴ノ直徑優ニ三寸

ニ餘ルモノアリ、深山ニ於テハ往々巨大ナル蛇ニ出會ヒタルガ如キ物語ヲ聞クコトアルモ總テ事實ニアラス内地ノ蛇ハ最モ大ナルモノニシテ十尺前後ナリト聞ケハ麻里布村ニ棲息スル白蛇ハ内地ニ於テハ最大ナルモノナランカ、長サ十二尺ヲ超ユルガ如キ巨大ナル白蛇ハ其數甚タ多カラス、長サ五六尺ノモノ最モ多シ

### 白蛇ノ眼ト舌ノ色

總テ白化セル動物ノ眼ハ虹彩中ニ於ケル血液ノ色ガ外部ヨリ眞紅ト見ユル構造トナリ居ルモノト聞ケルガ本村ノ蛇モ他ノ白化動物ト同様ニ其眼眞紅<sup>ルビ</sup>玉石ノ色ノ如キ眞紅ニシテ特ニ日光ノ當ル場所ニテハ美事ナル紅色ヲ呈ス、白蛇ハ靜止中ハ休眠セサル限り絶ヘズ口ヲ開キ舌ヲ動カス其ノ色ハ他ノ蛇又ハ有色ノ青大將ノ舌ノ色ヨリハ遙カニ淡キ紅色ナルハ注意スヘキ點ナルヘシ

美禰郡赤郷村白魚洞内ノ白化セル魚類ハ白化ノ原因ヲ異ニスルガ故ニ眼ノ色紅色ナラスシテ鹹魚ノ眼ノ如シ是レ多年闇黒ノ洞穴内ニアリテ日光ヲ受ケス自然視力ヲ失ヒ又ハ視力ヲ失ハントスル程度ニ至リシ結果ナランカ、是亦タ参考ノ爲

### メ附記ス

### 白蛇棲息ノ數

白蛇ハ晝間ニモ徘徊スルモ主トシテ夜間ニ出テ食物ヲ求ムルガ如シ而シテ其ノ巡行スル場所ハ總テ人目ニ觸レ難キ所多キヲ以テ其數ヲ計上スルコトハ難事中ノ難事ニシテ確實ナル數ヲ算出スルコトハ到底不可能ナリ、大正十二年秋期始メテ調査ニ着手セシトキハ今津ノ元吉川家倉庫及其附近ニノミ棲息スルコト判明シ同地方ノ人々モ今津以外ニハ白蛇棲息セザルモノト信シ今津附近白蛇棲息數ヲ四五百匹ト推定セシモ大正十三年夏期更ラニ調査ヲ進ムルト共ニ其ノ棲息地ノ範圍モ判明シ約四百町歩ノ地域ニ亘ルモノナルコトヲ知リ其地域ヲ數十箇所ニ區劃シ、各區内ノ人々ト合議協力シテ各區内ノ推定數ヲ計上セシニ約二千餘四トナレリ因テ其推定數ヲ半減スルトモ一千匹ヲ下ラザル見込ナリ

一匹ノ白蛇ト雖モ大ニ珍トスルニ足ルモノナルニ一地方ニ斯ク多數棲息シ而カモ内地ニ於テハ最モ巨大ナルモノナルト云フニ至ツテハ實ニ稀有ナル地方ト謂ハザルベカラサルナリ、尙ホ白蛇ハ年次棲息ノ範圍ヲ擴張スルト共ニ其ノ數モ年々増加スルガ如シ

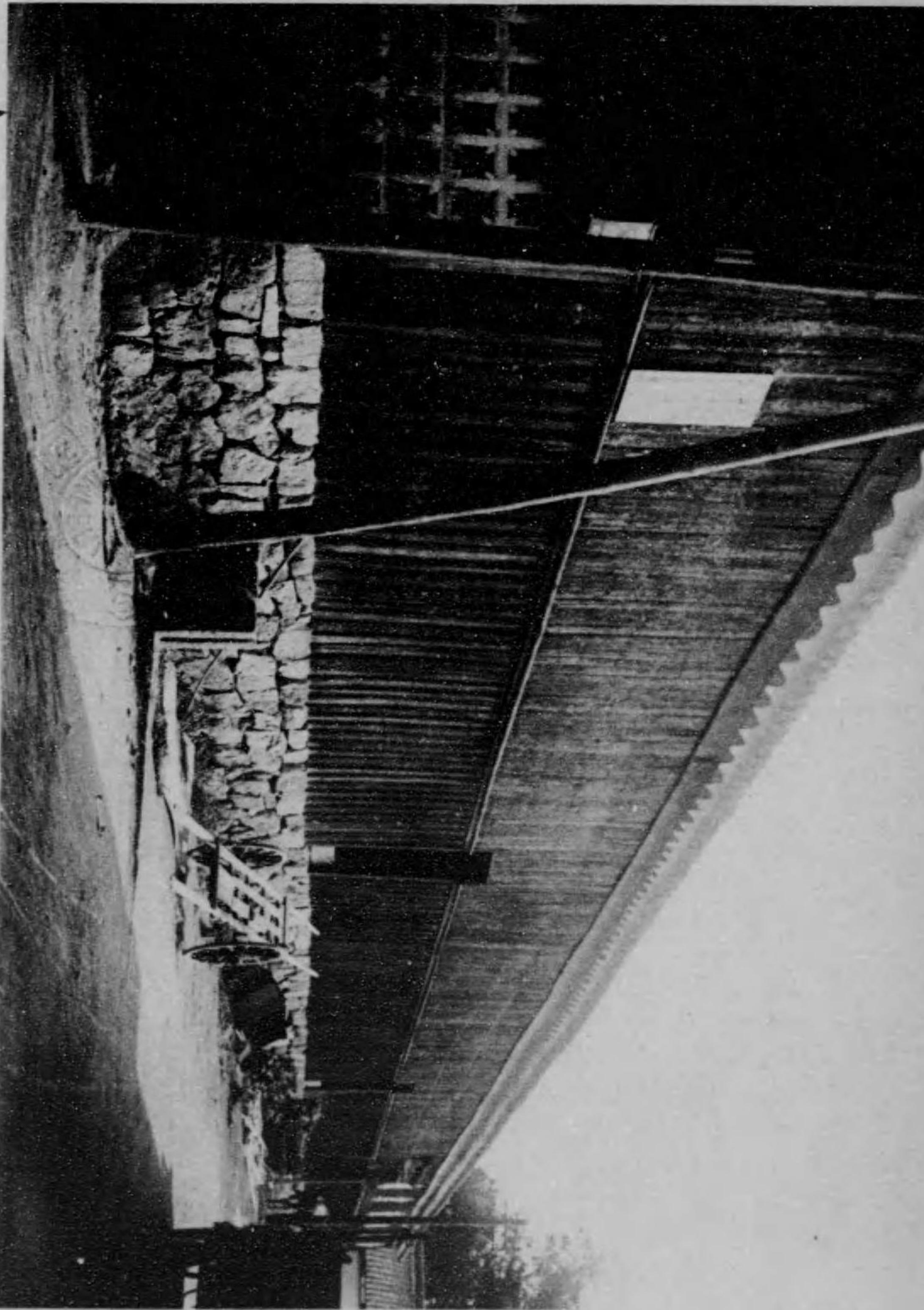
白蛇棲息ノ場所ト徘徊スル場所

六

白蛇棲息ノ場所ハ川岸ノ石垣及家屋ノ石垣、家根ノ天井裏、屋根裏、土壌内、床下、材木及薪炭ノ堆積シアル場所、倉庫内等ニシテ鼠ノ最モ多ク出ツル場所ヲ撰ンデ潜行ス、米穀ヲ積メル倉庫内ハ鼠多キヲ以テ白蛇特ニ多シ、家屋及倉庫ハ古キモノヲ撰ンデ巡行スルガ如シ、白蛇ハ隣家ヨリ隣家ヘト絶ヘズ巡回シテ鼠其他ノ食物ヲ求ム故ニ田園ニアリテハ餌料多キ桑園ノ中ニ屢々之ヲ見ルコトアリ、又タ人家ノ座敷ニ這上リテ各室内ヲ巡行スルコトハ敢テ珍ラシカラス、又タ倉庫ノ屋瓦上ニ數匹モ出テ、暖ヲ取ルヲ見ルコトモアリ、舊藩主吉川家ガ延寶年間ニ創建セシト云フ今津川畔ノ倉庫ハ建築極メテ古ク石垣モ巨石ヲ築キ規模頗ル廣大ナルモノナルガ同倉庫ハ白蛇棲息ノ中心地又ハ根源地ト呼バル、モノナリ

白蛇ノ出ツル期間ト時刻

白蛇ハ他ノ蛇ニ比シテ其ノ出ツル期間ハ約一箇月間遅レ約一ヶ月間早ク影ヲ潜ム其期間ハ大抵五月上旬ヨリ九月末迄ナレル其年ノ溫度ニ關係シテ多少ノ相違アリ、蛇ノ出テ初ムル五月ヨリ蛇ノ影ヲ潜ムル九月ニ至ル五ヶ月ノ間ニ於テモ蛇



藏御ノ津今ルス 息棲敷多キ最ノ蛇白

ノ白晝出ツル時刻ハ定マラズ、是レ空氣ノ乾濕、溫度、氣壓ニ關係スルモノナルカ或  
ハ然ラザルカ大正十三年夏期實查ノ際村内ノ各所ニ白蛇ノ出テ來リタル際ハ直  
チニ通報セヨト依頼シ置ケルモ二三日間ハ一匹モ出テ來ラザリシガ偶然一ヶ所  
ヨリ白蛇出テタリト報告シ來ルト其ニ各所各家ヨリ我家ニモ白蛇出テタリ速カ  
ニ來リテ實地ノ視察ヲ要スト續々通知シ來レルガ如ク白蛇ノ出ツル時刻ニハ期  
セズシテ多數出テ來ルハ頗ル銳敏ナル感覺アルモノナルガ如ク察セラル

#### 白蛇ノ食物

白蛇ハ鼠ヲ主要ナル食物トシ鼠ニ次テハ蛙ヲ捕フルヲ屢々見ルコトアリ、又タ薄  
暮蚊ノ群集スルトコロニテ連續跳躍シテ之ヲ捕フルコトアリ、今津ノ倉庫内ニハ  
元多量ノ穀類ノ堆積シアリタル際ハ著シク多數ノ白蛇群集セシヨリ里人ハ「御藏  
内ノ蛇ハ米ヲ食フガ爲メ白蛇トナレリ」ト傳ヘ居レルモ蛇ハ米ヲ食フモノニアラ  
ズシテ米ヲ食フ鼠ハ白蛇ガ捕ヘントスル目的物ナリ、白蛇ハ各戸ヲ巡回シテ天井  
裏、屋根裏、石垣穴等ノ任意自在ニ通過潜行シテ鼠ノ巣窟ヲ襲フガ故ニ白蛇ノ屋内  
ヲ巡回スルヤ多數ノ鼠ハ忽チ八方ニ逸散ス、其ノ鼠ヲ捕フル技能ハ到底老練ナル

猫ト雖モ遠ク及バザル處トス、然レニ老鼠ニシテ往々白蛇ノ襲撃ニ出會ヒテ格闘シ白蛇ノ顔面及頭部ガ痛クモ傷ケラレタルモノヲ見ルコト敢テ珍ラシカラス、白蛇ノ繁殖

從來本村ニ於テ白蛇ノ繁殖ニ就テハ注意シテ現狀ヲ目撃シタルモノ稀ナレル五  
六ノ實見者ヨリ聞クニ白蛇ハ夏期有色ノ蛇ト相接スルコトモアルモ何ツレガ雄ニシテ何ツレガ雌ナルカヲ明ラカニセズ而シテ白蛇ト白蛇トガ相接シタルモノハ未タ見タルコト無シト云フモ實際白蛇ト有色ノ蛇トノミ相接スルモノトスレバ疑問トスル點頗ル多キモ本件ハ研究上ノ重要點ナレバ今後ノ問題トシテ暫ラク保留セントス

秋期仔蛇ヲ見ル時期ニ於テ材木又ハ薪炭等ヲ取除ク際會々數匹一群ノ仔蛇ヲ見ルコトアリ假ニ五匹ノ仔蛇アリトスレハ三匹ハ白蛇ニシテ殘リ二匹ハ有色ノ青大將ノ子ナリ、仔蛇ハ各自餌ヲ求ムルモノナルガ爲メ群ヲ爲スコト極メテ稀ナレバスカル仔蛇ノ群ヲ見ルコトハ極メテ偶然ノ幸機ナラザルベカラズ、仔蛇カスク完全ニ白蛇ト有色ノモノトノ二種ニ岐ル、ハめんてるノ方則ニ據ルモノニシテ

遺傳學上實ニ好箇ノ資料ナレル未タ分離ノ關係及狀態明瞭ナラズ、後日研究者ノ手ニ委ネテ其ノ明確ナル結果ヲ聞カントス

#### 白蛇ノ性質

青大將ハ他ノ蛇ニ比シテ性質溫和ナリ其白化セルモノ即チ白蛇ハ性質更ラニ一段溫順ニシテ人ノ誤マツテ踏ムコトアルモ毫モ危害ヲ加ヘズ僅カニ體ヲ移動スルノミ、其他有ラユル動作モ有色ノモノニ比シテ數等溫和ナリ、白蛇ハ家屋ノ内外ヲ巡回スル際偶然人ニ出會フコトアレバ人ヲ凝視シテ少シモ動カス一時間以上モ其儘靜止ス故ニ他ノ地方ヨリ白蛇ヲ實見セント望ム者其地ニ來リシ場合ハ何入カ蛇ヲ見出スト共ニ蛇ヨリ視線ヲ放タサレハ長ク其儘靜止スルヲ以テ其間ニ實見希望者ヲ呼出スノ方法ヲ探レリ斯ノ如ク溫和ナルヲ以テ往々街路ノ附近ニ現ハレ他地方ノ旅人ニ捕獲セラレ風呂敷包ミトセラレ又ハバスケットニ入レラレテ持チ去ラレタル例尠ナカラス

#### 白蛇ノ愛顧

普通ノ蛇ハ形態頗ル不快ニシテ蛇蝎ノ語アルガ如ク何人モ之ヲ視ルヲ欲セザル

モノナレル白蛇ハ外觀何等不快ノ感ヲ與ヘズ何ントナク神祕的ノ色合ニシテ氣品高ク加フルニ性質極メテ溫和ナレバ毫モ人ニ危害ヲ加ヘス家屋内ニ這込メハ鼠族影ヲ潜メ人ヲ利スルコト多クレハ本村ニ於テハ老幼男女ヲ分タス極力白蛇ノ愛顧ニ努ム其愛顧ハ無害有益ノ動物トシテ何等迷信ヲ伴ハザルモノ大部分ヲ古ムルモ極メテ稀ニ白蛇ハ金の神ノ使者ナリトノ迷信ヲ以テ愛顧尊敬スルモノモアリ

里人白蛇愛顧ノ狀況ニ就テ其ノ二三ノ例ヲ舉クレハ左ノ如シ

若シ白蛇ガ座敷内ニ這込ミタル場合ニ於テハ決シテ竹木ヲ以テ追ヒ或ハ足音ヲ以テ追拂フカ如キコトヲ爲サス一般ニ白蛇ノ爲スガ儘ニ任スモ萬一白蛇ヲ追出サルヘカラサル必要アリトスレハ手ヲ以テ徐々ニ疊ヲ打チテ蛇ノ進路ヲ換ヘシム

白蛇ガ街路ニ近キ所ニ遊フヲ見出シタル場合ハ白蛇ガ通行人ノ眼ニ觸レサル所ニ移行シ全ク安全ナリト認ムル迄ハ自身ノ急用ヲモ顧ミスシテ監視ス是レ通行人ガ白蛇ニ危害ヲ加ヘ又ハ捕獲シ去ルヲ慮ルガ故ナリ



石立ル祀ヲ蛇白

旅人ガ白蛇ヲ捕獲シタルモノヲ認メタル場合ハ里人ハ出テ、切リニ其蛇ヲ放タ  
ンコトヲ乞ヒ或ハ金錢ヲ拂ツテ其蛇ヲ購フテ放ツ

街路ニ白蛇病ムモノヲ認メタル時ハ里人ハ草木ノ葉ヲ以テ蛇ヲ覆ヒ炎クガ如キ  
夏期ノ日光ヲ避ケシメ陶器ノ破片ヲ拾ヒ來ツテ水ヲ滿タシテ之ヲ與ヘ或ハ戸板  
ヲ出シテ蛇ヲ乘セテ自身ノ屋内ニ持歸リテ看護スル等ノ場合モアリト云フ

#### 白蛇ニ對スル迷信

總テ白化セル動物ニ對シテハ本邦ノミナラス海外ニ於テモ種々ノ迷信ヲ伴フモ  
ノアリト聞ケリ本村ノ白蛇ニ就テハ前記ノ如ク金の神ノ使者ナリト稀ニ迷信ス  
ルモノアルノ外新港電車停留所附近今津ノ東北半里ノ處ニ小川ヲ距テ、立石ト  
稱スル方一間高サ五間許ノ略ホ長方形ヲ爲ス巨岩アリ水平ニ裂縫ヲ造リ蛇ノ棲  
息ニ頗ル好適ス、立石ハ白蛇ヲ祀ルモノニシテ有ラユル祈願ヲ爲シテ効顯アリト  
シテ遠近ヨリ賽スルモノアリ

#### 鼠ト蛇

麻里布村及川下村附近ハ鼠ノ繁殖極メテ盛ニシテ農作物ノ被害夥シ又タ數種ノ

蛇盛ニ繁殖ス、蛇ノ多キハ其食物タル鼠多キガ其ノ原因ヲ爲スモノナリ。普通ノ蛇ハ村内ノ兒童極力驅除ニ努ムルモ白蛇ハ愛護スルガ故ニ本村白蛇ノ増殖モ有色蛇ノ淘汰ト其食物タル鼠族ノ盛ニ繁殖スルコトニ與ツテ大ニ力アルモノナリ。

#### 白蛇観覽場

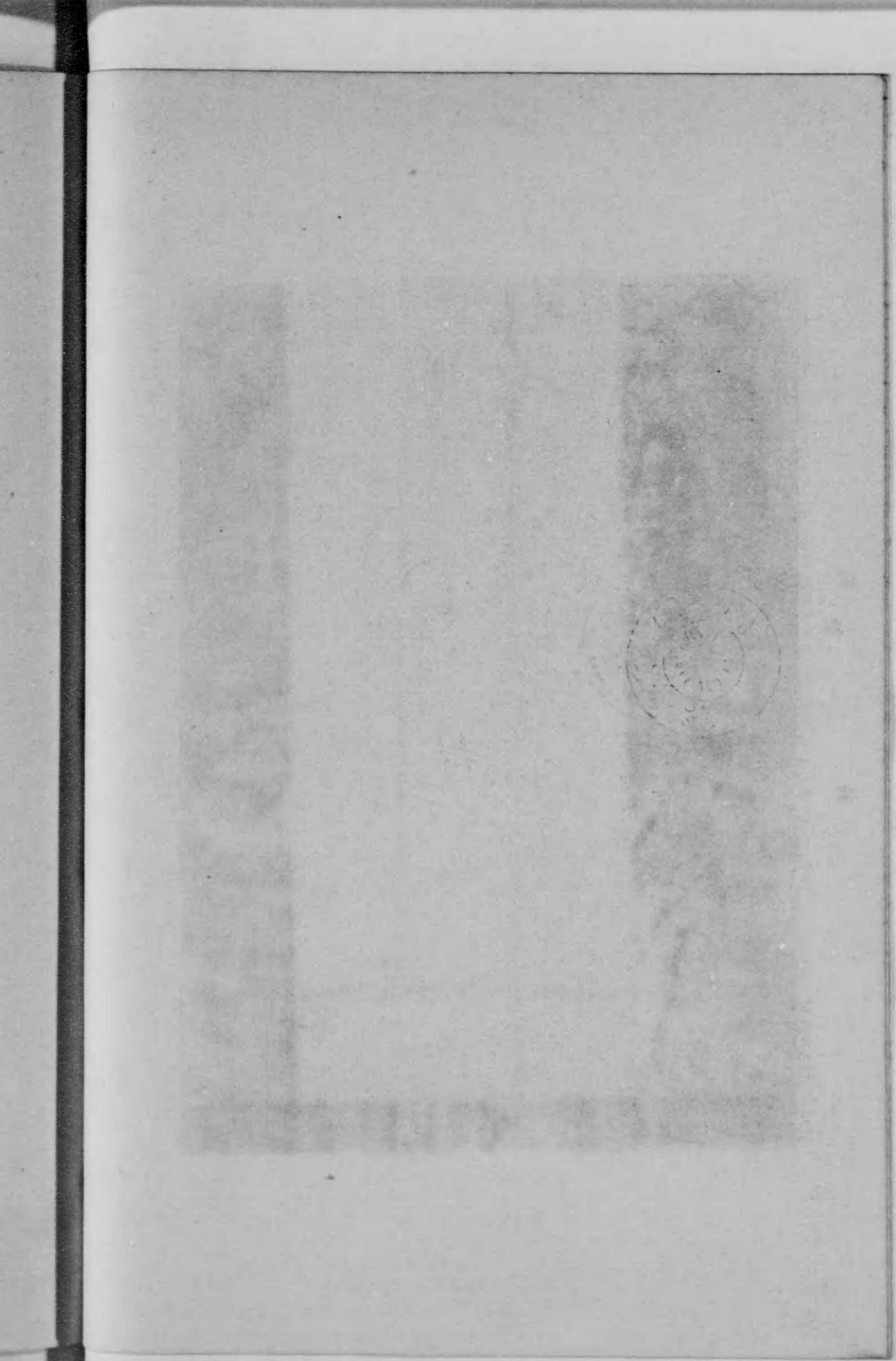
白蛇ハ前述ノ如ク夜間若クハ人目ヲ避ケルガ如キ場所ニ出ツルカ故ニ村内多數ニ棲息スルトモ常ニ白蛇ヲ觀覽スルコト困難ナレバ麻里布村ニ於テハ白蛇ノ中心地又ハ根源地ト呼ハル、今津ノ一地域ヲ定メ相當ノ設備ヲ爲シテ白蛇観覽場ヲ造リ蛇ノ出ツル時期ニ於テハ何時ニテモ容易ニ研究シ得ラル、ヤウ計劃中ナレバ一兩年以後ニハ白蛇觀覽ヲ目的トシテ來ル者ニ満足ヲ與ヘ得ルコト、信ス尙ホ白蛇ノ繁殖其他疑問トスル種々ノ問題モ各方面ニ涉リテ試験ヲ遂ケ得ラル、モノナレバ是等モ併セテ漸次分明スルナルヘシ。

今津ハ山陽線岩國驛ノ西十五町許ナレモ岩國驛前ヨリ岩國行電車ニア今津停留場ニ下車シテ小川ニ架シタル石橋ヲ渡レバ直チニ今津ノ市街トナル。





钢  
样



## 一一 鶴渡來地

指定年月日 大正十年三月三日

區域 熊毛郡八代村全部但須野河内ヲ除ク  
八代村ハ山陽線島田驛ノ北三里半ノ所ニアル山間ノ農村ニシテ島田驛ヨリ小周  
防、呼坂等ヲ經テ自動車ノ便アリ島田ヨリ呼坂迄ハ道路略ホ平坦ナルモ呼坂ヨリ  
一里半ノ間ニ海拔一千三百尺許ノ佛坂ノ險ヲ超ヘザルベカラス、坂頂ニ達シ自動  
車ノ窓外ヨリ北方ハ八代盆地ヲ南方ハ周防灘ヲ瞰下スルヲ要ス。

鶴ハ徳川時代ニ於テハ法令ヲ以テ其捕獲ヲ禁止シタルモノナルモ明治維新後ハ  
其法令ハ何等効力無キモノトナリタレル明治六七年頃迄ハ本縣下到處ニ多數ノ  
鶴ハ年々渡來シタルモ前原ノ乱ノ前年萩町ノ某ガ雁島ニテ鶴ノ狩獵ヲ始メタル  
ヨリ縣下各地之ニ倣フヤ爾來遂ニ其渡來ヲ断ツニ至レリ 明治二十五年保護鳥  
ノ制ハ布カレ鶴ハ保護鳥ト定メラレタル際ハ時期既ニ遅シ本縣ノミナラヌ國內  
殆ンド鶴ノ影ヲ見ルコト能ハサル時ナリキ、然ルニ本縣熊毛郡八代村及鹿島縣出

水郡阿久根村ノ二箇所ノミハ幸ニ村民極力鶴ノ愛顧ニ力メタル結果今日迄其渡來ヲ斷タサル爲メ何レモ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依リ天然紀念物トシテ指定セラレタリ

#### 八代村ノ概況

八代村ハ熊毛郡ノ北隅ニ位シ東ハ玖珂郡西ハ都濃郡ニ境シ高度一千三百尺ヨリ二千三百尺ノ高山ニテ圍繞セラル、四百餘町歩ノ耕地ト人家四百戸ヲ有スル盆地ニシテ其盆地モ海拔略ホ一千百尺前後ニシテ冬期ハ溫度低ク夜間ハ氷點下六七度トナリ晝間モ氷點下二三度トナルコト稀ナラス、四百餘町歩ノ耕地ハ水田極メテ多ク其水常ニ清冷ナリ、四圍ノ山嶽ハ花崗岩ニテ構成セラレ悉ク松林ニテ覆ハレ山頂ハ禿山トナル所甚タ多シ、本村ハ海岸ヨリ四里半ヲ距ツル山間ノ小村ニシテ古來交通頗ル不便ナルガ爲メ普通人ノ近寄ルガ如キ所ニハアラサリシカ近時道路開ケ山陽線島田驛ヨリハ自動車ノ定期運轉ヲ見ルニ至リ鶴観覽ノ爲メ此山間ノ僻地ニ向フモノ引きモ切ラス

#### 鶴保護ノ徑路

鶴ハ舊政時代ヨリ連續渡來シ明治二十年迄ハ八代村ハ完全ニ鶴ノ安全地帶ナリシガ當時各地トモ狩獵全盛ヲ極メ八代村ノ鶴ニ着眼スルモノアルニ至リシヨリ同村長ハ時ノ縣知事ニ鶴ノ捕獲禁止方ヲ請願セリ、然ルニ其事洩レテ禁止前ニ鶴ヲ狩獵セント山口町ノ郊外御堀ノ某ナルモノ僕ソ從ヘ本村市尻ニ來ツテ一羽ヲ射殺シ二羽ヲ傷ケ銃彈一民屋ヲ貫ケリ、祖先來多年鶴ノ愛護ニ力ヲ盡シタル村民之ヲ見テ憤慨措ク能ハス各戸家ヲ空フシテ男女老幼一齊ニ總立チトナリ各又鎌鍬天秤棒等ヲ手ニシテ市尻ニ向ツテ雲集シ鶴加害者ヲ取巻キ其暴行ヲ責ムルモ奈何セン當時未タ保護鳥ノ制度無ケレバ握リタル鍬ノ力モ弛ミ殆ント泣寢入りノ状態トナリ唯ダ流彈ノ家屋ヲ貫ケルヲ責ムルノ一途アルノミ茲ニ於テ時寒熊毛郡長阪本協ハ八代長請願ノ鶴捕獲禁止ノ速カニ實施セラレンコトヲ切取供懲請セシヨリ左ノ告示ヲ發スルニ至リ

縣下周防國熊毛郡八代村ニ於テ鶴ヲ捕獲スルコトヲ禁ス違背シタルモ該處日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五錢以上壹圓拾錢以下ノ科料ニ處ス本件ノ據來

銃弾ヲ受ケ傷ヲ蒙リタル鶴ハ一度大陸ニ還去シタルモ翌年又々他ノ鶴ト共ニ渡來シ暫ラクシテ病ンテ飛フヲ得ズ又々食餌ヲ求メ難キ有様ナルヨリ本村ノ瀬來某ナルモノ自家ニ壇ヲ作ツテ頗ル愛顧ニ力メタルモ遂ニ斃レタルヨリ鶴ヲ葬リテ小サキ石ヲ立テ鶴之墓ト銘ス、其墓タルヤ實ニ微々タルモノナレバ如何ニ村民カ鶴ヲ愛護スルカラ立證シ動物愛顧ノ表示トナルノミナラス八代村鶴渡來地保全ノ犠牲紀念物トシテ永ク傳フヘキモノナリ、傷ケル鶴ノ再來ニ因リ毎年渡來スル鶴ハ常ニ同一群鶴ナルコトヲ確メ得タリ

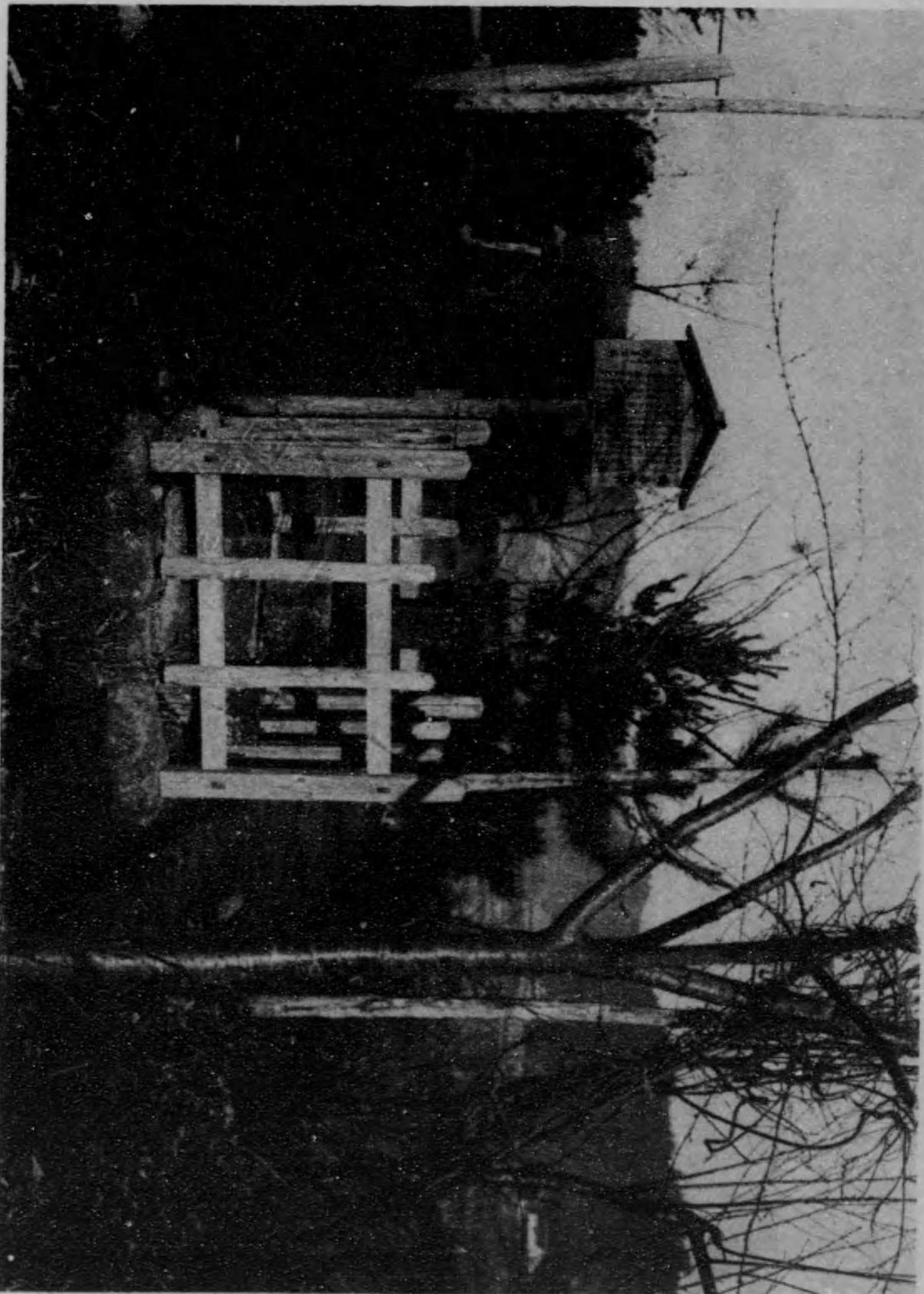
其後八代村ニ對シテ狩獵法ニ依リ左ノ縣令ヲ發布ス

狩獵法第七條ニ依リ左ノ箇所ニ於テ銃獵ヲナスコトヲ禁ス犯スモノハ科料又ハ拘留ニ處ス

明治三十七年十二月十六日 山口縣知事 渡邊 融

一 熊毛郡八代村ノ内字新畑字須野河内ヲ除キ 一圓

斯ノ如ク八代村ノ鶴ハ全ク安全ニ保護セラレタリ、續テ同村ニ於テハ野鶴保護會ヲ設ケ鶴ノ餌料ヲ給與シ今日ニ至ル迄切リニ鶴ノ愛護ニ力ム



大正八年四月九日法律第四十四號史蹟名勝天然紀念物保存法發布セラレ大正十年三月三日内務大臣ヨリ同法第一條ニ依リ天然紀念物鶴渡來地トシテ指定セラレタリ

八代村ノ鶴ハ史蹟名勝天然紀念物保存法ニ依ル本縣最初ノ指定地ナリ

鶴渡來時ノ狀況ト大陸ニ還去時ノ狀況

鶴ハ大抵毎年十月廿四日先發ノ一群來リ數日ヲ距テ、大群來リ其後引續キ十一月上旬頃迄ハ數羽ヨリ成ル小群續々後レ馳セニ參加スルコトアリ、其ノ渡來ノ日ハ毎年十月廿四日ト云フモ年ニ依リテ多少ノ遅速アリ、先發ノ數ハ三四羽ヲ常トスルモノ年ニ依リテ相違アリ

鶴渡來日ヲ確實ニ云ヘバ大正六年ニハ十月廿六日、同七、八、九年ニハ孰レモ十月廿四日、同十年ニハ十月廿日、同十一、十二年ニハ十月廿四日、同十三年ニハ十月十八日ニ其先發來レリ、其渡來日ノ遲速ハ鶴大陸根據地ノ溫度、天候、降雪、上空ノ氣流ニ關係スルヤ明ラカナリ、其八代村ニ到着スル時刻ハ夜間ナルモ拂曉前ニシテ決シテ晝間ニ堂々ト來ルモノニアラズ是レ航空ノ途中ニ於テ鶯、鷹等其他ノ敵ニ出會フ

コトヲ恐ル、ガ故ナルベシ

渡來ノ時先發ノ一群來リ次テ全部ノ大群來ル年ト、先發來リ次テ大群來リ其後引續キ二週間内小群後レ馳セニ參加スルニ様ノ形式アルヲ見ル、後ノ場合ヲ察ス調ニ先發ヲ除キ全群同時ニ出發スルモ航空ノ途中晝間ニ於テ鷺鷹等ノ襲撃ニ會セテ隊形乱レ一時四散シテ各所ニ迷ヒ再ヒ航路ヲ定メテ斯ク後レ馳セニ到達スルモノナランカ或ハ長途ノ航空ナルカ爲メ疲勞セル鶴ノ爲メニ其一眷族ガ途中ニ休養シテ來ルニハアラサルカ

鶴渡來ノ道筋ハ阿武郡見島及島根縣津和野町ヲ目標トシテ其上空ヲ通過奉ケ八代村ニ來ルモノト一般ニ唱フルモ該地方ニ就キ詳細ニ調査シタルモ斯方ルをアラ見タル者無シ、故ニ是レ全ク想像ノ説ニシテ渡來到着ノ時刻ハ夜間ノコトナレハ見島及津和野ノ人々ガ上空ノ鶴群ヲ認ムルコトハ到底不可能ナリ

夜間ノ渡來ハ明月ノ時モ弦月ノ時モ全ク闇夜ノ時モアレニ常ニ靜穩ナル日ニシテ決シテ暴風及降雨ナキ日ナリ

八代村四周ノ山嶺ハ禿山ニシテ雪ノ如ク純白トナレル地域極ムテ多シ、其禿山木

確ニ鶴渡來ニ際シ重要ナル目標ナルカ如シ

鶴ノ大陸ニ還去時ハ毎年三月上旬ニシテ八代村及附近隣村ニ分散シテ食物ヲ求メツ、アルモノモ二月下旬ヨリハ漸次八代村ノ水田ニ集合シ三月上旬天氣晴朗ニシテ極メテ平穩ナル日ヲ撰ヒ鶴ノ全群午前九時十時頃ヨリ一齊ニ上空舞ヒ上リ全ク明視シ得サル迄モ高ク上空ヲ旋回飛翔ス、斯クスルコト三四日ニシテ一齊ニ大陸ニ向ヒ一羽ノ影モ認ムル能ハサルニ至ル、全群大陸ニ向ツテ出發スル際ニハ渡來時ノ如ク先發ヲ出スヤ否ヤ明ラカナラス

大陸ニ還去ノ前三四時間全群一齊ニ上空ニ高ク飛翔スルハ羽翼ノ訓練モ一原因

ナルヘキモ氣流ノ關係及溫度ヲ觀測シ又ハ航空ノ方向等ヲ定ムルモノニハアラザルカ

渡來スル鶴ノ種類及其根據地

古來本邦ニ渡來スル鶴ハ丹頂鶴、真那鶴、鍋鶴、黑鶴、袖黑鶴、婦羽鶴ノ六種ニシテ明治七八年頃迄本縣ニ渡來セシモノハ丹頂鶴、真那鶴、鍋鶴ノ三種ナリ八代村ニ渡來スルモノハ鍋鶴ニシテ他ノ鶴ヲ伴ハス鍋鶴ハ丹頂鶴及真那鶴ノ二種ニ比シテ躰軽

稍ヤ小形ニシテ頭及頸モ純白ナリ頸ノ全周圍白色ナルハ他ノ鶴ニ見サル特色ナリ、頭及頸ヲ除クノ外全身灰黒色ニシテ嘴ハ少シク縁黒脚ハ黒シ、此鶴ハ頸及頭白色ナレハ英語ニテハ白頭鶴 White Headed Crane ト云フ、其根據地ハ明ラカナラザレニ西比利亞ノ東部若クハ蒙古地方ナルベシト云フモノアリ

### 鶴ノ塙

鶴ノ塙ハ八代村ノ四周ニ聳ツ山巔ノ禿山ニシテ大陽寺山外三ヶ所ナリ、何ツレモ展望廣瀬ノ場所ニシテ鶴ハ畫家ノ繪ノ如ク松樹其他ノ樹木ノ枝ニ休ミ又ハ塙ヲ定ムルモノニアラズ、其塙モ必ス一定セス往々水田中ニ眠ルコトモアリテ嚴冬ノ候飛鶴ノ双脚ニ氷ノ板ヲ附ケタルモノヲ見ルコト稀ナラス

鶴ハ翌日ノ天候ヲ豫知シ若シ降雨ノ虞アルトキハ其前夕ハ極メテ遅ク迄田圃ニ止マリテ食ヲ求メ翌日晴天ナラハ前夕早ク塙ニ着ク常トス

鶴ノ塙ニアルヤ警戒嚴重ニシテ深夜ト雖モ必ス歩哨ヲ置キ時々交代シテ周圍ヲ絶ヘス監視ス

黄昏塙ニ向フトキハ田圃ヨリ直チニ塙ニ入ラズシテ其附近ニ至レバ谷間小山等



鶴 鍋

ヲ暫クラ迂回飛翔シテ徐々ニ峙ニ就ク、是レ附近ノ状態安全ナルヤ否ヤヲ見定ム  
ルモノナルト共ニナルヘク時ノ位置ヲ他ニ示サ・ル意味ナランカ  
未明時ヲ離ル、時ハ彼等ガ其ノ日ニ目的トスル田圃トハ全ク反對ノ方向ニ暫ラ  
ク飛翔迂回シテ後チ目的地ニ向フ

#### 鶴ノ食物ト游涉地

鶴ハ雜食スルモノニシテ鱗鈍、目高、昆虫、田螺其他ノ巻貝及水草、草根、糲ヲ好ンデ食  
フ、鶴ノ渡來スルヤ田圃ニテ稻ノ落穂、落穀、草根ヲ小溝及水溜ニテハ魚類、貝類、水草  
等ヲ拾フモ十一月末頃ヨリハ田圃ニ食物減退スルヨリ漸次人家ノ附近十數間以内  
ノ所ニ近寄リ鶴ノ一群ニ加ハリテ食ヲ拾フコトアリ、サレル尙ホ食物不充分ナ  
レハ鶴ノ大群ハ漸次一眷族毎ニ分離シ各族毎ニ地域ヲ定メテ游涉食ヲ求ムルガ  
如シ、若シ一族ガ他ノ領域ニ浸入セントスルヤ強聲ヲ發シテ外來ノ鶴群ヲ威嚇ス  
ルモ時ニ兩群猛烈ニ格闘スルコトアリ、其格闘ハ三四間ヲ距テ、相對峙シ双方ヨ  
リ同時ニ跳躍シテ蹴合ヒテハ退キ退イテハ進ミ暫ラク相鬪フ、其際附近ノ各群鶴  
奇聲ヲ發シテ急ニ告ケ其ノ成敗如何ヲ窺ハシカ爲メニ集合スルガ如シ、鶴ノ食料

ガ村内ニテ漸次減退スルヲ見ル。ヤ隣村ナル三丘、周防、米川中須・須々万各村ニ分レ  
游渉スルアリ八代村ニ留マルアリ。然レハ夜間ニハ全部各村ヨリ八代村ニ歸ツテ  
場ニ就ク。故ニ鶴ハ十月下旬ヨリ十一月上中旬頃ニ大群ヲ爲シ其後ハ漸々小群ニ  
分レ遂ニ附近ノ隣村ニ向フモ二月下旬頃ヨリハ大部分八代村ヲ離レス是レ三月  
上旬大陸ニ還去ノ準備ヲ爲スモノナランカ。斯カル状態ナルヲ以テ鶴ノ大群ヲ見  
ントスルノ好期ハ十一月中ナリ。鶴ノ小群ニ分離スル時ハ總テ一眷族毎ニ小團ヲ  
ナス鶴ハ雌雄ノ區別困難ナリ。食物ヲ拾フ際ニハ必ス歩哨ヲ置イテ四方ヲ嚴重ニ  
警戒ス。歩哨ハ略ホ一定時ヲ置イテ順次交代シテ其ノ任ニ當ル。

## 群鶴ノ上空旋回

群鶴ハ田圃ノ上空ヲ旋回飛翔スルコトアリ里人之レヲ鶴ノ舞ト稱ス。鶴ノ舞ハ小  
群ナルコトアリ大群ナルコトアリ全群ナルコトアリ舞ハ短時間ナルコトアリ二  
三時ニ涉ルコトアリ一日中ニ二三回モ行フコトアリ極メテ稀ニハ夜間ニ演スル  
コトモアリ。百數十羽ノ鶴カ翼ヲ連子テ或ハ高ク或ハ低ク憂々ノ聲ヲ放ツテ村落  
ノ四周ヲ旋回スルヲ道行ク兒童ハ上空ヲ仰キ見ツ、竿ニナレ鍵ニナレト無邪氣

ナル聲ヲ限リニ呼フヲ見ルモ一興ナリ  
鶴ノ恐怖物

鶴ハ總テ見慣レサルモノヲ恐ル。十數年前迄ハ洋服ヲ着ケタル人ヲ恐レ續テ自動  
車ヲ恐レシモ近時ハ洋服ヲ着ケタル人モ自動車モ恐怖セザルニ至レリ。三年前迄  
ハ自動車村内ニ入ル毎ニ鶴ノ全群四方ニ飛散スルヲ例トスル程ナリシガ今ハ慣  
レテ自動車ノ周圍數間ノ所迄近寄リ來ルニ至レリ。然ルニ近時八代村ノ上空ハ飛  
行機屢々通過シ鶴ノ恐怖スルコト體ナラス。飛行機ノ影ヲ現ハスヤ田圃ノ鶴ハ各  
々異様ナル悲鳴ヲ上ケテ急ヲ告ケ狼狽シテ全部逸散ス不幸ニシテ逃ヶ後レタル  
鶴ノ群アラバ地面ニ腹ヲ附ケ恐縮平伏シテ僅カニ頭ノミヲ上ケテ飛行機ヲ凝視  
シ只タ死ヲ待フガ如キ奇態ナル形貌ヲ爲ス亦タ一奇觀ナリ

## 鶴ノ根據地ノ距離

根據地ハ西比利亞ノ東部若クハ蒙古ナラントノ說ヲナスモノアリ之レ略ホ信ニ  
近キガ如シ。八代村ヨリ還去ノ出發時間ハ午前十時頃ニシテ同村ニ到着ノ時刻ハ  
午前四時前後ナレハ大陸ヨリ出發及還去歸着ノ時刻モ八代村ト同一ナルヘシ故

ニ途中約十八時間ヲ要スル割合トナル、鶴カ飛行機ヲ見ルヤ全速力ニテ飛散スル時ハ飛行機速力ノ四倍前後ナリ、大陸ド八代間渡來及還去ノ時ハ斯カル全速力ヲ出スコト無ク其速力ヲ半減スルモノトシテ飛行機ノ約二倍ノ速力トナリ、一時間八十里ヲ飛行スルモノト認メラル、故ニ約一千四百里即チ西比利亞ノ東部ニ當ル地ヨリ一舉ニ渡來スルモノト推定シ得ヘキモノナランカ

#### 鶴渡來數

渡來數ハ大正元年頃迄ハ五十羽、大正八年頃ニハ七十羽、大正十一年ニハ百羽前後ナリシモ大正十三年ニハ百六七十羽ニ増加セリ

#### 鶴ノ観覽

観覽ニハ鶴群カ未明時ヲ放レテ憂々ノ聲ヲ放ツテ田圃ニ向フ現況黃昏時ニ向フ狀態鶴ノ領域ニ他ノ鶴群浸入セントスルヲ威嚇スル有様、鶴ノ舞其他有ラユル習性ヲ詳細ニ着眼スルヲ要ス。

大正十四年三月一日印刷  
大正十四年三月六日發行 (非賣品)

山 口 縣

山口縣廳內  
印刷所 山口縣印刷所

14.5  
127

終

